

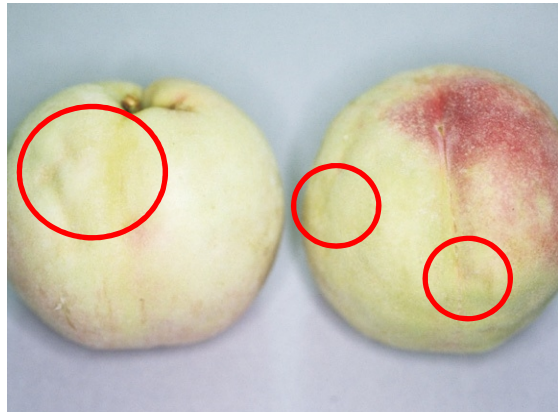
3 生態

- (1) 果樹カメムシ類の主な増殖場所は、スギやヒノキ等の球果である。果樹園でも産卵は行われるが、成虫までは発育しない。スギ等の球果が多い年は夏に個体数が増加し、えさが不足すると秋に果樹園に飛来して果実を吸汁し、落果や奇形果等の被害が増える。また、越冬密度が高いと、春から夏にかけて果樹園に飛来して果実を吸汁し、落果や奇形果等の被害をもたらす。
- (2) もも、うめなどの核果類や、なし、かき等が被害を受けやすい。多発するとかんきつ類、ぶどうにも被害が及ぶ恐れがある。
- (3) 果実の肥大に伴って果実袋と果実が密着すると、果実袋の上から吸汁されることもある。
- (4) 果樹カメムシ類の果樹園等への飛来は日没後の2～3時間が中心である。



▲チャバネアオカメムシ

※(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 提供



▲ももの被害(果実表面がデコボコになる:丸印が被害箇所)

※大阪府植物防疫協会 提供

4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の発生量や時期には地域や園地で差があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。
(別添表「果樹カメムシ類の薬剤散布例」参考)
- (2) 薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。
- (3) 合成ピレスロイド剤は果樹カメムシ類への効果は高いが、天敵類への影響も大きく、連用するとハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるため注意する。
- (4) うめや、ももの幼果期は薬害が発生しやすいため注意する。
- (5) 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (6) 黄色灯を設置している園地では早急に点灯する。ただしチャバネアオカメムシ以外には効果がないため、光源近くや園内でクサギカメムシやツヤアオカメムシを確認した場合は薬剤散布を行う。
- (7) 果樹園全体に網目4mm以下のネットを被覆することで侵入を阻止する。

<別添> 果樹カメムシ類の薬剤散布例

作物	薬剤名	系統 (IRAC)	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の使用 回数
もも	アディオン乳剤	ピレスロイド (3A)	2,000倍	収穫7日前まで	6回以内
	スミチオン水和剤40	有機リン(1B)	800～ 1,000倍	収穫3日前まで	6回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイ ド(4A)	5,000～ 10,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
うめ	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000～ 4,000倍	収穫前日まで	3回以内
かき	アディオン乳剤	ピレスロイド (3A)	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで	5回以内
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイ ド(4A)	5,000～ 10,000倍	収穫7日前まで	3回以内
なし	スミチオン水和剤40	有機リン(1B)	800～ 1,000倍	無袋栽培の場合 収穫21日前まで	6回以内
				有袋栽培の場合 収穫14日前まで	
ぶどう	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000～ 4,000倍	収穫前日まで	3回以内
みかん	アディオン乳剤 (かんきつ)	ピレスロイド (3A)	2,000倍	収穫14日前まで	6回以内
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 (かんきつ)	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤 (かんきつ)	ネオニコチノイ ド(4A)	2,000～ 4,000倍	収穫前日まで	3回以内

最新情報は農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システムで確認してください。

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)